

## 令和4年度 山形県看護師等確保推進会議 議事概要

- ◎ 日 時：令和4年11月28日（月）13：15～14：30
- ◎ 場 所：WEB開催（山形県庁議会棟第1会議室）
- ◎ 出席者：（委員）22名（総合支庁）4名（事務局）4名

### 1 開 会

### 2 あいさつ（阿彦 健康福祉部医療統括監）

### 3 報 告

- （1）「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」の進捗状況及び令和4年度看護師等確保対策の主な取り組みについて [資料1]
- （2）令和4年度山形県看護師等確保対策及び主な事業実施状況について [資料2]

#### 委員からの意見

#### 【 学生の確保定着 】

##### ●（山形県立保健医療大学）

看護師確保対策の一環としては、県からの委託を受けて高校1・2年生を対象とした看護体験セミナーを行った。コロナ禍での開催ではあったが、参加した高校生からは、非常に有意義だったという意見が多くあった。また、地域医療体験セミナーは、昨年、一昨年と中止していたが、今年度は1か所だけではあるが、実施することができた。

大学の独自事業としては、地元ナース養成プログラムを行っている。

##### ●（山形大学看護学科）

本学の場合、例年、県内出身者に限らず全国から学生が入学するという特徴があり、卒業後の県内定着が難しい現状がある。また、大学院や養護教諭特別別科に進学する学生もいる。大学院進学後に県内で就業している学生もいるため、附属病院にも協力いただき、県内就業への働きかけを行っている。

##### ●（国立病院機構山形病院附属看護学校）

当校の場合、独立行政法人国立病院機構に属しており、機構に就業するという組織目標もあるため、県内就業とのバランスも重要である。

また、少子高齢化ということもあり、定員割れが継続するなど学生の充足ができなければ、学校の将来に関わることであり、当面の課題と認識している。

● (山形県立山辺高等学校)

本校は5年一貫教育の養成校であり、高校入試で学生数が決まる。令和4年度の入学生に関しては、定員割れするなど学生の確保を課題と認識している。

学校としては、中学校訪問に力を入れており、ホームページや中学生対象の説明会等でアピールしている。

県内定着に関しては、看護学生に対する地域医療体験セミナーを3年ぶりに再開しており、県内で働くことの魅力を伝えていきたい。

● (酒田市立酒田看護専門学校)

当校においても、入学生の定員割れが大きな課題となっている。高校の進路担当の先生と情報共有を行っているが、ある年を境に進学率が大きく下がり、それが現在も続いている状態である。その要因のひとつとして、近隣にある大規模工場に高校生の就業が流れており、その影響が否めないと感じているところである。引き続き、入学生の確保に力を入れ、ホームページ等で工夫をしているところである。

【 キャリアアップ 】 特定行為研修制度の普及について

● (日本海総合病院)

当院は令和2年から特定行為研修機関になっている。研修機関になったきっかけは、手術件数が多く、手術内容も高度化していることと、当院でも麻酔科医が不足していることがある。看護師の資質向上の点で、遠方への長期間の研修は家庭を持っている世代が多く難しいという現状から、当院が研修機関になって育成しようという背景があった。

現状は、自施設の看護師を対象に、年間1名から3名の育成を行っており、現在、研修修了者5名が麻酔科医と一緒に仕事をしている。今後も、自施設看護師の育成をすすめていく方向で計画している。

【 離職防止 】 新人看護職員研修事業について

● (山形大学医学部附属病院)

当院の新人教育の特徴として、5年ほど前からローテーション制度を導入している。早期のバーンアウト防止を目的に、1年間に2～3か所程度、本人が希望する部署をまわるシステムを取っている。

職場のケアの支援として、新人に対しては必要に応じてメンタルナースのマネジメントによるサポートを行い、職場の状況はグーグルフォームを活用した報告方法で把握するようになっている。

病院での感染対策が大事なのは重々承知しているが、新人研修においては、同期同士の横のつながりが大切だと考え、研修は中止せず、予定通り実施している。

#### 【 再就業促進 】 ナースセンター事業について

##### ● (山形県看護協会)

再就業促進として、求人・求職の相談の充実をはかるためにラインを活用している。ラインの友だち登録者数は順調に増えており、求人情報や職場紹介を定期的に発信している。

ワクチン接種・ホテルでの健康観察等、コロナ関連での再就業については、就業希望者は多いものの、諸事情によりフルタイムで勤務出来ない人たちが多く、この方たちを就業に繋げることが出来れば大きな力になると感じており、雇用側も短時間勤務での採用枠を作っていただきたいところ。

少し話は反れるが、学生の確保定着のところで、今年、県外就業者にアンケートを行っている。結果、山形へ帰って来たいと思っている人は、約半数程度いるようだった。就業先を選ぶポイントとしては、1番目は給与、2番目は人間関係、3番目は院内教育、選ぶ方法は、1番目にホームページ、2番目に就職ガイダンス、3番目に学校へ届く募集案内、という結果であった。ここにターゲットを絞って求人を出したり、情報を提供することも有効ではないかと感じている。

## 4 協 議

(令和5年度の看護師等確保対策の施策の方向性について (案)

[ 資料3]

・施策の方向性について、各関係機関と連携し一体的に展開していくことで、委員一同了承を得る。

## 5 その他

##### ● (山形県看護協会)

地域の方々に看護職が不足していることが知られていないことを課題と認識しており、この会議のメンバーについて、高校教育課以外に、小学生や中学生に関係する機関を対象に追加して、情報発信を依頼・強化するなど対応が必要ではないか。

##### ○ (事務局)

関係機関とも検討していきたい。

## 6 閉 会